

(第3種郵便物認可)

# サイ・テク 知と技の発信

【403】

## 埼玉大学・理工学研究の現場

最近、人工知能(AI)に関する話題が社会をにぎわすようになり、大きなブームを迎えている。人工知能の技術が今後も進歩し続けることにより、これまで人間が担っていた仕事が人工知能に取って代わられるといった議論や、人工知能が人間の知性を超越する段階(シンギュラリティ)に到達するといったSFのような話も出てきている。

一方で、現在の人工知能ブーム

を一過性のものとして冷ややかな目で見る人たちもいる。これまでも人工知能ブームはたびたび起こっており、その都度期待外れに終わった過去の教訓から、今回のブームもそのうち冷めていくであろうといった意見だ。

私自身は、専門である画像処理の研究を通じて、現在の人工知能技術の飛躍的な発展を目の当たりにし、その威力にたびたび驚かされている。その反面、人間の代わ

# AIによる薬局業務支援

## 小室孝 大学院教授



こむろ・たかし 1972年生まれ。2001年3月東京大学大学院修了。博士(工学)。東京大学大学院助手、講師を経て、11年4月埼玉大学大学院准教授、19年4月から教授。専門は画像処理、ユーザインターフェースなど。

りになるような人工知能の実現にはまだ遠いのではないかと実感もある。人工知能がわれわれにとって便利な道具であることは間違いなく、この技術をつまき使っていくことが大事なのではないかと思っている。

現在私は埼玉県内の企業と共同で、人工知能技術を用いて薬局業務を支援するシステムの研究開発に携わっている。調剤薬局において薬剤師が行う業務は多岐にわたっており、薬剤師に大きな負

担がかかっている現状がある。そのうちの一部を人工知能が肩代わりすることで薬剤師の負担を減らし、患者との対面業務などに専念できるようにするのが狙いだ。

このようなシステムが作られると、薬剤師の仕事が人工知能が奪ってしまうのではないかと思われるかもしれない。しかし実際のところ、そのような未来は当面は来ないと考えている。現在の人工知能の技術は、正解が明確な問題に

対しては人間以上の性能を発揮するが、答えがない問題に対しては必ずしも有効ではない。薬剤師の業務の中心は患者とのコミュニケーションであり、そこには正解がない場合が多い。このような業務に対しては経験豊かな薬剤師に勝るものはないと考える。

人工知能が行うのは、あくまでそのサポートである。たとえば、服薬指導のレコメンデーション(いわゆる「おすすすめ」)により薬剤師に「気付き」を与え、見落としを防いだり、副作用などの潜在的リスクを管理したりといったものである。これらにより薬剤師の仕事の質を向上し、患者とのコミュニケーションがより促進されるようになればと考えている。